

皿田文彦

さらだ・ふみひこ

福山誠之館校長(第27代)

経歴

生:昭和4年(1929年)ごろ

没:平成23年3月16日、享年82歳

昭和26年(1951年)ごろ	22歳ごろ	東京大学卒業
昭和52年(1977年)	48歳ごろ	広島県立府中高等学校教諭
昭和60年(1985年)4月1日～61年(1986年)3月31日	56～57歳ごろ	広島県立府中高等学校教頭
昭和61年(1986年)4月1日～63年(1988年)3月31日	57～59歳ごろ	広島県立府中高等学校校長
昭和63年(1988年)4月1日～平成2年(1990年)3月31日	59～61歳ごろ	広島県立福山誠之館高等学校校長

誠之館百三十年史発刊の頃 皿田文彦

誠之館の同窓会館並びに歴史資料室の落成・開館を見るに至りましたことには、感慨ひとしお深いものを覚えます。何年も志を強く持ちつづけて取り組んで行けば、その志は必ず実現するという証左を目の当りにする思いがします。

ちょうど私の在任中に、『誠之館百三十年史(上巻・下巻)』の編纂が終り、その巻頭に「発刊によせて」の一文を寄せる幸運にめぐまれ、忘れ難い思い込みをもって書かせてもらった記憶が今よみがえって来ます。また、記念館に収蔵されていた数々の貴重な資料を、若しものことがあってはと、同窓会の方々と協議を重ね、福山県立歴史博物館に一時預ってもらうことにしたのもその頃でした。それらの資料が、いま本来あるべき誠之館の資料室に無事帰って来たことは、まさに感慨を新たにします。

誠之館高校の通信制課程が、その本館と体育館と宿泊棟をその教育目的に沿った立派な独立校舎を、校地内に建設、完成するに至ったことも、学校の歴史の中の大きな一頁として、私の脳裡に深く刻まれているところです。それまで通信制課程で使用していた本館の部屋を、同窓会の事務局として使用させてもらうべくその許可を求めに出県した記憶もいまよみがえって来ます。それまでは同窓会事務局は、校舎本館の校長室前に設けられた小さなプレハブの中で仕事が進められていたのでした。百三十年史の編纂も、そのプレハブの中で進められたのでした。毎日のように編纂関係者が、そのプレハブに出入りしておられた姿が今も目に浮びます。

当時は、同窓会館の完成と歴史資料室の開館の日がこんなに早くやって来るとは思いもせませんでした。これも誠之館卒業生の、学校と後輩たちに寄せられる思いと志が、どんなに厚いものであるかということをお話しているものだと思います。 (出典1)

出典1:『語りて栄光の歴史あり・誠之館同窓会特別号』、23頁、福山誠之館同窓会編刊、平成13年10月

出典2:『創立八十周年記念誌』、広島県立府中高等学校創立八〇周年記念誌編集委員会編、広島県立府中高等学校創立八〇周年記念誌事業委員会刊、1993年3月10日

2005年4月6日更新:本文●2006年3月28日更新:タイトル●2008年2月19日更新:経歴、本文●2008年4月22日更新:経歴●2011年3月16日更新:経歴●